

■「環境公共」事例紹介

ふるさと水土里^{みどり}ふれあいの旅 2023 について

令和5年6月22日(木)に環境公共推進プロジェクト「ふるさと水土里^{みどり}ふれあいの旅 2023」が開催されました。

この活動は青森北部、青森第二北部、奥内の3土地改良区が主催したもので、地元の小学生に土地改良事業で整備したため池や頭首工等の農業水利施設の役割のほか、水源林の機能を理解してもらうことを目的としています。

はじめに、左堰堤（ひだりぜきつつみ）（ため池）を訪れました。

土地改良区役員からため池の機能に関することと、県民局林業振興課から森林が水源林として水を溜める機能があることの説明があり、参加児童は真剣に耳を傾けていました。

説明のあとは、水質調査と生き物観察を行いました。

水質調査ではパックテストで事前に採取した水の pH や COD 等を調査し、生き物観察ではため池近くの水路やため池で捕獲した水生生物について環境公共プロフェッショナルの工藤氏による解説を聞きながら観察していました。



左堰堤で水源林の説明を聞く様子



左堰堤での生き物観察の様子

続いて、内堰頭首工（うちぜきとうしゅこう）を見学しました。

内堰頭首工は下流の農地約 171ha へ農業用水を供給する役割があるということについて、主催土地改良区から説明がありました。

説明のあと、水質調査と頭首工で捕獲した生き物観察を行い、左堰堤での調査結果と比較していました。

内堰頭首工の水は左堰堤と比較して COD は小さく pH は若干アルカリ性を示していることや、左堰堤とは異なる生き物が生息していることがわかりました。



内堰頭首工の説明を聞く様子



内堰頭首工での水質調査の様子

次に分水工を見学しました。

主催土地改良区から、分水工は田んぼに必要な用水を分けて供給する施設であるとの説明がありました。

分水工見学のあとは小橋集会所で県民局農村計画課から水循環の説明を行いました。水は限りある資源であり、大切に使う必要があるということ学びました。

旅の最後には 900m の用水路にアヒルのおもちゃを流し、水路の流速について学ぶアヒルレースを行いました。

アヒルはおよそ 18 分で 900m の水路を流れ、流速はおよそ 0.8m/s であることが分かりました。



水循環の説明を聞く様子



アヒルレースの様子

最後に小学校へ戻り、解散式を行って本イベントは終了しました。

参加児童からは、「森林の土にはたくさんの栄養があることがわかった」、「水を大切にしたい」という感想を頂き、有意義なイベントとなりました。

「環境公共」HP

<http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

